

あしかみナーズ



Vol.03

2020年11月号

神奈川県立足柄上病院 看護局

発行元: 足柄上病院看護教育科

COVID-19対応でも活きた「認知症看護」

当院に入院される新型コロナウイルス感染症(COVID-19)患者は高齢者が多く、認知症の方もいます。感染対策が最優先の中、看護師は患者のそばに長時間いることができず「何もできない」という無力感を抱えていました。

反応の乏しかった患者が話し始めた

切通認知症看護認定看護師は、まず「患者さんに目を合わせて、声をかける」ことを提案しました。認知症ケアサポートチームメンバーの吉田主任看護師は、自らが先頭に立って反応の乏しい認知症患者と目を合わせ、声をかけ続けました。すると徐々に患者に変化が見られ始め、発語のなかった患者は「ここはどこ?」と話し、口を閉ざして全く食事を摂らなかった患者は少しずつ口を開けるようになりました。前施設で車いす生活であった患者がトイレに歩けるようになった事例もありました。



認知症ケアサポートチームリーダー
認知症看護認定看護師 切通

『あなたを大事にしています』というメッセージ

「目を合わせる、声をかけるという行動は、『あなたを大事にしています』というメッセージ。認知症の方でもわかりやすい」と切通看護師。変化する患者の反応に、対応した看護師はケアの喜びを感じ「何もできない」から「できることがある」へ気持ちが変わりました。

一連の変化について、「看護師をはじめ多職種チーム全員が、あきらめずに関わった結果と思う」と吉田看護師。当院は現在もCOVID-19患者を受け入れています。感染対策が優先され通常のケアがしづらい状況ですが、看護師は「今私たちにできること」をチームで探しながら、看護のレベルアップを図っています。



認知症ケアサポートチームメンバー
主任看護師 吉田

新人看護師「急変対応」研修レポート

10月22日、生田救急看護認定看護師を講師として、新人看護師を対象に急変時対応研修を実施しました。「急変の前兆に気づき、必要な初期対応がわかる」を目標に、講義とBLSの演習を行いました。

研修者からは、「BLSに自信がついた」「実際の急変時の流れがイメージできた」「心肺停止だけが急変ではなく、急変の前兆を理解することができた」との声が聞かれ、有意義な研修となりました。

また7月以来、3か月ぶりの全体研修だったので、新人同士でお互いの頑張りを励ましあう会にもなりました。



研修の様子



インターンシップ申込みはこちらから↓



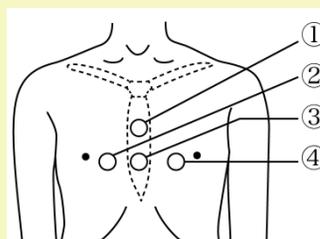
「おうちにカエル」は、患者さんが住み慣れた地域で生活できるよう当院の看護の理念が込められています。

チャレンジ! 看護師国家試験

～第104回(2015年)問題より～

問題
成人の心臓マッサージ法の圧迫部位で正しいのはどれか。

※解答は最下部



解答③: 圧迫部位は胸骨上である。左右の乳頭を結ぶ線の中心となる③が胸骨圧迫の部位であり、①では圧迫部位が高すぎる。胸骨の左右である②・④では肋骨を圧迫することになり、肋骨骨折による血気胸を引き起こす危険性が高くなる。